

剣窓



延世大學校文献情報學科教授
韓國大學劍道連盟諮問委員

文^{ムン}
聖^{ソン}
彬^{ビン}

京 都 武 者 修 行

今年3月3日から4日まで、東京学連剣友連合会が主催する京都武者修行に参加した後、全日本剣道連盟から「剣筆」に原稿を執筆する貴重な機会を頂き、大変恐縮致しております。

私は、1976年に韓国の延世大学に入ってから「兼剣爲樂」をモットーに、故・李 虎岩先生に剣道を教わる事になりました。2年前に亡くなられた李 虎岩先生は、全日本剣道連盟から「有功賞」を受賞された最初の外国人だと言われています。

私が国際剣道交流試合に初めて出たのは、1978年の12月に韓国大学剣道連盟代表選手団として参加した関東／関西学生剣道連盟選手団との親善試合でした。その後1993年にアメリカで博士学位を取得して以来、延世大学剣道部の指導教授／師範を引き受ける事になりました。現在、教士七段

で昨年から八段審査を受けております。

2008年には全日本剣道連盟が中心となって行った「第33回外国人剣道指導者夏期講習会」に韓国代表として派遣されました。その間、主任講師の佐藤成明先生および福本修二先生にお目にかかる事ができ、大変嬉しく思っております。また2009年には1年間、交換教授として慶應大学で過ごしながら綱町道場で三田剣友会と週3回程の稽古を通じ、佐藤博信先生を始め素晴らしい先生方から剣道を教わる事ができました。しかも韓国大学連盟の副会長として、「第20回東京学連剣友剣道大会」の開会式に当時の林 信雄会長から招待して頂き、東京学連剣友連合会とご縁を結ぶ事になりました。2010、2012、2014年には韓国大学剣道連盟代表選手団長として親善交流試合のため関東／関西学生剣道連盟を訪問した際には、佐藤成明会長と長村光造会

長を始め双方の先生方にお目にかかれました。

2010年5月には延世大学と日本の中央大学、両校が創立125周年の記念行事で剣道交流を行った事が、延世大学剣道部が国際剣道交流を始める切っ掛けになりました。そして7年後の2017年2月、延世剣友会の9名が三田剣友会と中央剣友会を訪問した事が本格的な国際剣道交流に繋がる機会になりました。

昨年9月には、関東学生剣道連盟が日韓大学剣道交流試合のために訪韓された際、東京学連剣友連合会の創立50周年記念誌を頂き、同年12月開催予定の「第28回東京学連剣友剣道大会」および、この度の「京都武者修行」について百鬼史訓前会長と伊藤昌孝副会長が紹介してくださり、東京学連剣友連合会から国際交流拡大の一環として、韓国大学剣道連盟OBの参加を勧誘して頂きました。昨年の三田剣友会との交剣知愛を思い出しながら、できるだけ毎年日本で剣道修行を続けて欲しいという事で、京都武者修行に快く参加する事になりました。延世剣友会の13名は、武者修行とは何かという好奇心を抱きながら京都へ向かいましたが、大変貴重な体験と忘れられない思い出と共に帰国の途に就きました。

この度、わざわざ東京からお越しいなった高齢の先生方が花園大学、武徳殿での2回の稽古と懇親会を通じ、「生涯剣道」の真骨頂を見せてくださった事に感銘を受けました。未だにその時の感激が心の底まで染み透っているのを感じております。これが正に「生涯剣道」の真髓なのだろう。このような一面に触れる事により、更に剣道の魅力にのめり込んでいくのを感じております。その上、日韓大学剣道交流を通じて知り合った関西学連剣友連合会の先生方と共に稽古が出来た事をとっても嬉しく思っております。私にとって武徳殿での稽古は5回目になりました。

今回、グローバル時代に応じて国を超えた京都武者修行は、感極まる最高のイベントでした。そして延世剣友会一同にとっても、有意義な遠征になったと確信し、心から感謝しております。京都武者修行を切っ掛けに東京学連剣友連合会の武者修行がさらに全日本地域及び海外に広がっていく事を心から楽しみにしております。

今後とも延世剣友会は、国際剣道交流の活性化のため熱心に取り組んでいって欲しいと、東京学連友連合会との協力をお約束すると共に、高橋 亨会長を始め皆様のご活躍と益々のご健勝をお祈り申し上げます。